

京極読書新聞 <第103号>

発行日 令和元年9月11日(水)
京極町生涯学習センター湧学館

京中生に インタビュー



平成29年度第28回京極町読書感想文コンクールで入選した中学生に、読んだ本のことや学校生活についてなどをお聞きしました。

京極の中学生はどんな本を読んでいるのでしょうか？

岩瀬 有里亜さん 高校1年「胸いっぱいのお愛を」
藤波 香花さん 3年「くちびるに歌を」



——この「胸いっぱいのお愛を」の舞台が、京極町と親子都市の丸亀だったことに驚いたんですが、岩瀬さんはどうしてこの本を選んだのですか。

岩瀬 自分が輝けなくて悩んでいる人たちに、違う輝きかたもあるということを知ってほしいと思ったからです。

——この本を読んで岩瀬さんはどう思いましたか。

岩瀬 尾崎さんは努力が報われずスタメンになれなかったのですが、マネージャーとなり、選手のサポートするのが、すごいと思いました。

——岩瀬さんは感想文の中で、2018年の抱負を書いていたのですが、具体的にどんなことに挑戦しましたか。

岩瀬 野球部の後志選抜に挑戦できました。そのほかでは、授業で手をあげることが、間違うのが怖くてできませんでした。

——藤波さんは、どうしてこの「くちびるに歌を」を選んだのですか。

藤波 この主人公は合唱をやっていて、私も音楽部に入っていて、自分と共通点があるなと思ったからです。

——藤波さんはこの本に出てくるように、15年後の自分へ手紙を書くことになったら、どのようなことを書きますか。

藤波 私だったら嬉しかったことや悲しかったことなど、日常を振り返るようなことを書くと思います。

——主人公のサトルが自分に書いた手紙を、コトミという女子部員が読んでしまう場面がありますが、藤波さんはどうしてこの場面が印象深いと思ったんですか。

藤波 サトルは自分の気持ちをうまく人に伝えることができないのですが、サトルが思っていることを、コトミがこの手紙を読んで知ることによって、二人の距離が縮まっていったことが、私は良かったと思いました。

——最後にお二人にお聞きしますが、最近面白かった本や映画は何ですか。

岩瀬 「プーと大人になった僕」という映画です。イギリスのある少年が大人になり、クマのプーさんとの出会いを通して、子どものころに持っていた純粋な気持ちを、思い出していくという物語で感動しました。

藤波 私は「かがみの弧城」という本です。作者の辻村深月が好きなのですが、ミステリーなのかファンタジーなのか区別がつかない物語で、印象深かったです。



「胸いっぱいのお愛を」 広谷 鏡子／著（徳間書店、2012）

「くちびるに歌を」 中田 永一／著（小学館、2011）

田居 福太郎さん 高校1年「海をわたる被爆ピアノ」 村田 蒼登さん 高校1年「考える野球」



——田居さんはどうしてこの本を選んだのですか。

田居 戦争のことを知りたかったからです。この本は「世の中への扉」シリーズの一冊で、以前読んだ同じシリーズの一冊が面白かったからです。

——被爆したときの話がたくさん書かれています。一番怖かった話は何ですか。

田居 作者の父親の話で、同僚と建物の下敷きになり、全身血まみれになったところです。父親は消防士に助けられました。同僚は助けることができませんでした。

——高校生が中心となって被爆ピアノの演奏会を開く場面がありましたが、どう思いましたか。

田居 高校生でも年齢に関係なく、こういうことができるのがすごいと思いました。

——この本から何か学んだことがありますか。

田居 どんな小さなことにも挑戦することの大切さです。

——田居さんには、これから挑戦したいことがありますか。

田居 このあと高校受験が控えていますし、そのあと高校でも何かに挑戦していきたいです。

——今までに読んで一番面白かった本は何ですか。

田居 「五分後に意外な結末」のシリーズです。話の終わり方がミステリアスで面白かったです。

——中学校生活で一番心に残っているのは、どんなことですか。

田居 青森への修学旅行のとき、グループの自主研修で皆と一緒に行動したことです。

——村田さんはどうしてこの本を選んだのですか。

村田 ぼくは小1から野球をやっていて、今回の読書感想文に野球の本を読みたいと思いました。

——この本には野球に関するアドバイスがたくさん書かれていますが、参考になったことはありますか。

村田 「諦めなければチャンスは来る」というところと、「コンディショニングが成功すれば勝ったも同然」というところですか。もう一つは「カムバックサーモン」です。

——それはどういうことを言ってるのですか。

村田 試合での勝ち負けよりも、日頃の練習を通して人間的に成長することが大切で、大きくなって帰って来いということだと思います。

——この本を読んで野球は奥が深いスポーツだと思ったのですが。

村田 単に野球の技術だけじゃなく、仲間のことやいろんなことを考えていくことが大事なことだと思います。

——今までに読んで一番面白かった本は何ですか。

村田 アニメの「ワンピース」の小説版です。

——中学校生活で一番心に残っているのは、どんなことですか。

村田 ぼくも青森への修学旅行です。「康楽館」で見た演劇が楽しかったです。

「海をわたる被爆ピアノ」 矢川 光則／著（講談社，2010）

「考える野球」 遠藤 友彦／著（エイチエス，2007）

～湧学館・新着図書から～

「死にがいを求めて生きているの」 朝井リョウ／著 「コイコワレ」 乾 ルカ／著
（どちらも中央公論新社）



古代から未来までの日本で起こる「海族」と「山族」の闘いを描く『螺旋プロジェクト』。8人の作家が異なる時代を担当しています。朝井さんは平成、乾さんは昭和前期。1冊で物語は完結していますが、隠れキャラや共通アイテムが登場するなどシリーズで読むとニヤリとできるしかけも！

「漫画むかわ竜発掘記」 土屋 健／企画・原案（誠文堂新光社）

北海道の小さな町で発見された巨大恐竜の化石。それは「ザ・パーフェクト」と呼ばれるほど完全な状態で見つかりました。世紀の大発見の裏側にある多くの関係者の活躍から、2018年9月の胆振東部地震の時までのドラマを漫画で描いています。



泉山 絢音さん 高校1年「虹の向こうの未希へ」 吉田 琉晟さん 高校1年「岳」



——この主人公の遠藤未希さんは、どんな方なのですか。

泉山 東日本大震災発生直後、大きな津波が押し寄せてくる中、無線で避難を呼びかけ、自らの命を犠牲にして多くの人命を救いました。すごく人思いで、人の役に立つならどんなことでもやる人だと思いました。

——この本は未希さんのお母さんが書いたのですが、震災後どんな行動をとったのですか。

泉山 娘さんを探すために、いろんな避難所を回りましたが、なかなか見つかることができませんでした。後に変わり果てた未希さんによろやく会うことができました。

——お母さんが未希さんにかけて言葉があるそうですが。

泉山 「お母さんを選んで生まれてきてくれてありがとう。また家族になれる日まで、未希の分まで頑張って生きていきます」でした。

——その言葉を読んで、何か心に伝わってきましたか。

泉山 お母さんもつらかったと思いますが、未希さんの分まで生きようとして、お母さんも強い人だと思いました。

——今までに読んで一番面白かった本は何ですか。

泉山 今年読んだ「未来のきみが待つ場所へ」です。

6ページ目に続きます

——中学校生活で一番心に残っているのは、どんなことですか。

泉山 修学旅行で皆と始めて道外の青森へ行ったことです。

——吉田さんはどうしてこの本を選んだのですか。

吉田 まず「岳」という映画を見て、人の役に立てたらと思い選びました。

——この主人公島崎はどんな人物として描かれていますか。

吉田 山岳救助のボランティアなんですけど、責任感が強く、人にたよられる人物です。

——最初に、クレバスに落ちた青年を救助しましたが、その青年が事故前にとった行動をどう思いましたか。

吉田 天気が良いからと、アイゼンをはずして事故となりました。ちゃんと冬山のことを知っていればと思いました。

——また、二人の学生を救助する場面に、強烈な印象を受けたそうですが。

吉田 二人のうち、一人が途中で亡くなり、その学生を下に落として、後で遺体を回収するという場面でした。残酷で読んでいてつらかったです。

——この山岳救助ボランティアについて、どんな感想を持ちましたか。

吉田 すごく大変だけれど人のために役立つ仕事で、救助隊のチームプレイが大切だと思いました。

——今までに読んで一番面白かった本は何ですか。

吉田 野球の本なんですけど「グラウンドの空」という本です。

——中学校生活で一番心に残っているのは、どんなことですか。

吉田 3年のときの文化祭です。最後の有志発表で、皆と歌をうたったことが心に残りました。

——インタビューにご協力いただきまして、ありがとうございました。

「虹の向こうの未希へ」遠藤 美恵子／著（文藝春秋，2014）

「岳-ガク-」石塚真一／原作 涌井 学／著（小学館，2011）

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.jp>

